様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ３ 日現在

機関番号：１５４０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2014～2016
課題番号：２６５９０２３５

研究課題名（和文）「教科の指導法」を指導できる教師教育者の養成・成長：先生の先生はどのように育つか

研究課題名（英文）Preparation and professional development of teacher educators who teach "teaching methods of social studies education": how do teacher educators grow?

研究代表者
草原　和博（KUSAHARA, KAZUHIRO）

広島大学・教育学研究科・教授

研究者番号：４０２９４２６９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の成果は，以下３点に整理できる。
① 博士課程の大学院生は，TAを経験することでそれぞれ個性的な成長のパターンを示す。具体的には，教師教育者としてのアイデンティティを軸に展開していく者（大学院生A），研究者としてのアイデンティティを軸に展開していく者（大学院生B），経験を通して教師教育者・研究者としてのアイデンティティ構築にむかう者（大学院生C）。② ①の差異は，アイデンティティとその確立の程度に由来する。また①の成長は，教育実践上のつまずきや悩みで促進される。③ TAの経験は，研究者と教師教育者の両方の能力が要求される教科教育学を学ぶ大学院生に両者を自発的に架橋していく機会を与える。

研究成果の概要（英文）：The findings can be summarized in three points: (1) the process of the development of each teacher educator candidates is varied. Although the candidate A has been developed based on the identity as a teacher educator, the candidate B focuses more on the identity as a researcher. On the other hand, the identity of the candidate C seem to be confused between a teacher educator and a researcher. (2) The important factors are their identity and background. Particularly, the experience as a learner and the supervisors and colleagues seems to have an impact their perceptions and practice. (3) From their perceptions, the experience of GTA (Graduate teaching assistant)s would have a good effect of developing for not only teacher educators but also researchers. In fact, for candidate C who used be confused their identity, the experience as a GTA could give the good opportunity to reflect and establish his identity.

研究分野：教科教育学

キーワード：教師教育者　各教科の指導法　アイデンティティ　ティーチング・アシスタント（ＴＡ）　社会科教育

１．研究開始当初の背景

「教師」の質は，教師を育てる「教師教育者」の質に依存する。「教師教育者」の資質能力の育成は，将来，教科教育学が取り組むべき重要なテーマとなるだろう。本科研はそのための萌芽的取組である。

（１）国内外からみた本研究の位置づけ

本研究に挑戦したい背景には，大きく以下２つの動きがある。

第１に，教員養成からみた政策的な要請である。「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」（平成 24 年）では，「教員養成系大学・学部の教育研究の充実及び教職課程の質の向上を図るためには，これを担う大学教員の養成システムを整備していくことが必要」と述べる。本申請では，この要請を「教科の指導法」を担当できる大学教員の養成という視点から受けとめる。

第 2 に，類似研究からみた学術的な要請である。本テーマに係わる先駆的な取組に，大学院 GP で採択された「「Ed.D」型教育学系大学院プログラムの開発と実践（広島大学）」（平成 20 年～平成 22 年）がある。この取組は，優れた教師教育者の養成を主目的とした教育活動であり，必ずしも大学院での養成過程や修了後の成長過程を対象化して捉える研究活動としては組織されていない。本申請では，この取組を学術的研究として再構成し，発展させることをめざしたい。

（２）着想に至った経緯

申請者が勤務する大学院博士課程後期の修了生は，大半が教職課程を有する大学に就職していく。そこで教育的な配慮から，大学院生を Teaching Assistant に採用し，彼ら/彼女らに「教科の指導法」の指導の補助業務を与え，事実上の大学院版の「教育実習」を課してきた。また海外の大学院を視察し，そこで教師教育者の育成が組織的・体系的に行われている実態を知った。これら一連の過程で，「先生の先生はどのように育つのか」を体系的に究明する必要性をいだくに至った。

２．研究の目的

本研究は，「教科の指導法」を指導できる教師教育者の養成と成長に注目し，そのプロセスと促進条件を解明することを目的とする。具体的には以下 3 点を解明する。

（１）博士課程後期に在学する院生に，一定の指導や実習の経験を与えると，どのような過程・段階を経て，どのような資質を修得させることができるか。

（２）大学の教職課程に就職後，若手の「教科の指導法」の担当者はどのような困難に直面し，それをどのように乗り越えていくか。

（３）大学院が提供すべき教師教育者の養成プログラムとは，どのようなものか。

これらの成果をまとめて，社会科の「先生の先生」の養成・成長に関する研究書を刊行する。

３．研究の方法

本研究は，規範的介入研究，アクションリサーチ，実証的解釈研究の各方法論を組み合わせることで，「教科の指導法」を指導できる教師教育者育成プログラムのあり方を，年次追って考察していく。具体的には，

（１）指導教員は，教師教育者養成のモデル･カリキュラムを構想する【平成 26 年度】。

（２）大学院生は，モデル・カリキュラムにもとづいて学習した成果を報告する【平成 26～27 年度】。

（３）外部研究者は，大学院生と現職大学教員の成長過程を記述し，モデル・カリキュラムの妥当性を検証する。また教師教育者としての成長を促す諸条件を解明する【平成 27～28 年度】。

（４）上の研究成果は，年次ごとに論文にまとめるとともに，最終年度のシンポジウムで報告する。また専門書『教師教育者の養成と成長－先生の先生を育てる－』の出版をめざす。

４．研究成果

（１）平成 27 年度

初年次は本テーマの基礎研究に従事した。その結果，以下 3 点の成果が得られた。

① 「先生の先生」を育成する先駆的プログラムの調査・研究をおこなった。国際調査では，シンガポール，オーストラリア，シンガポールで活躍する教師教育者を訪ね，教師教育者に求められる資質・能力とそれを習得するまでのプロセスについて聞き取り調査を行った。国内調査では文献等を手がかりにして北海道大学や東京大学，筑波大学，京都大学等で確立されている大学教員の育成プログラムを分析し，その理念や方法の分類整理を試みた。調査の結果，日本国内では教師教育者の育成に特化した教育プログラムが未成熟なことが明らかとなった。

② 「先生の先生」を育成するプログラムの試行的な開発研究をおこなった。大学院生を教師教育者に育成する 5 段階の目標論と目標に準拠したアサイメントを体系化し，それに基づいて大学生を「各教科の指導法」（「社会科教育論」「地理歴史科教育」「教育実習入門」等の諸科目）の TA に従事させた。調査の結果，修士課程と博士課程の大学院生は問題意識に違いはあれども，意図的に設定された課題や業務に従事させることで，㋐授業づくりの目的や方法を説明したり，㋑自ら授業を実演したり，㋒他者の授業の批評・代案提示したりできるなど，教師教育者としての資質・能力の向上が期待できることが明らかとなった。

③ 「先生の先生」の自己成長を支援する教材の開発研究をおこなった。教員養成のあり方や教員研修のあり方を考えるヒントとなる「ハンドブック」を開発し，その有効性を検証した。調査の結果，教師教育者は，それ

ぞれの教師教育者観に基づいて，㋐研究者，㋑研修計画者，㋒実践支援者としてハンドブックを活用すること，またハンドブックは養成・研修のねらいや方法を省察する機会を与える点でも有益なことが明らかとなった。

（２）平成 28 年度

2 年次は本テーマの発展研究に従事した。その結果，以下 4 点の成果が得られた。

① 教師教育者の成長を促すアクションリサーチをおこなった。大学院生には「各教科の指導法」(「社会科教育論」「地理歴史科教育」「社会系（地理歴史）教科指導法」等の諸科目）の TA と自己の成長に関する self-study に取り組ませた。また，彼らに教師教育のハンドブックを開発・執筆する機会を与えることで，どのような意識変容が生じているかをメタ認知させた。

② 教師教育者の候補者の成長過程を明らかにした。「各教科の指導法」で TA に従事した大学院博士課程の院生 3 名に対して，授業観察と聞き取り調査を実施し，彼らが自己のアイデンティティや専門性をどこに見いだし，それをどのように成長させてきたかを解明した。

③ 現役の教師教育者のつまずきの多様性を明らかにした。研究経験を基盤にした大学教員 4 名と実践経験を基盤とした大学教員 4 名に対して，授業観察と聞き取り調査を実施し，「各教科の指導法」ではどのような資質・能力をどのように育成しているか，研究と実践をどのように関連付けてカリキュラム・デザインしているかを解明した。

④教師教育者の専門性に関する国際シンポジウムを開催した。アメリカからは Alicia Crowe 氏を招聘し，self-study が教師教育者の専門性向上に持つ効果について意見聴取できた。オランダからは Mieke Lunenberg 氏を招聘し，教師教育者の多様な概念規定と彼らの専門性を高める方策について情報交換できた。

（３）平成 29 年度

3 年次は本テーマの総括研究に従事した。その結果，以下 4 点の成果が得られた。

① 追加調査を実施した。過去 2 年の調査ではフォローできていなかった属性の教師教育者（現職経験の長い実務家としての教師教育者，博士等の学位なし）2 名について聞き取り調査を行い，データを収集し，分析した。3か年全体では10名のデータを収集することができた。

② 日本の教師教育者の諸類型と育成ルートを整理するとともに，研究系大学院に学ぶ教師教育候補者の専門性の成長過程について調査した結果を，ヨーロッパ教師教育学会（ATEE）で発表することができた。

③ 教師教育者の専門性を高める方法論として self-study について理論的考察を深め，研究会を開催した。海外で参照率の高い主要文献 10 冊程度を抽出し，翻訳と要約・解説を作成した。

④ 3 か年の成果を総括するために日本教師教育学会課題研究第 2 部会と連携して教師教育者の専門性に関するシンポジウムを開催した。本シンポジウムでは，本分野の世界的権威であるオーストラリア・モナシュ大学教育学部のジョン・ロックラン教授を招聘し，基調講演を実施した。あわせて以下 3 点の成果報告を行い，ロックラン氏よりフィードバックのコメントをいただいた。㋐lesson study を基盤としたドミニカ共和国における教師教育者の育成方略とその効果，㋑TA の経験を基盤とした広島大学における教師教育者の育成方略とその効果，㋒self-study を媒介とした広島大学における実習指導者の自己省察とその意味など。これらの成果は報告書にまとめて配布した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 12 件）

1．草原和博「教師教育者をテーマとした RIDLS 国際会議の成果と意義（「教師教育者の専門性」に関する国際シンポジウム）」『学習システム研究』第 5 号，査読無し，2017 年，pp.103-107

2．草原和博・大坂遊・金鍾成・稲垣和・岡田公一・河原洸亮・斉藤弘樹・迫有香・竹内和也・辻幸大・守谷富士彦・山田 薫・山口安司「社会科授業改善支援プログラムの開発と評価−教員養成・教員研修で活用できるオンライン教材とハンドブック教材の構成−」『学校教育実践学研究』第 23 巻，査読無し，2017 年，pp.93-101

3．岡田了祐・重秀雄・草原和博「研究者と教師の協働的な授業開発はいかにして成立しうるのか－中学校社会科地理的分野をめぐる取組を事例に－」『学校教育実践学研究』第 22 巻，査読無し，2016 年，pp.193-202

4．草原和博・岡田了祐・渡邉巧・大坂遊・阪上弘彬・岩下真也・上嶋智江・小川征児・木坂祥希・魏思遥・佐々木拓也・辻本成貴・寺嶋崇・山田健司・杠拓哉「社会科授業力改善ハンドブック開発と評価－教員養成・教員研修の場で活用できる教材の構成－ 」『学校教育実践学研究』第 22 巻，査読無し，2016 年，pp.181-192

5．渡邉巧・大坂遊・草原和博「小学校における社会科を中心とした校内研修の意味と効果－校内研修の教科教育学的考察－」『教育学研究ジャーナル』第 18 号，査読有，2016 年，pp.1-10

6．大坂遊・渡邉巧・金鍾成・草原和博「社会科教師志望学生の授業プランニング能力はいかにして学習されるのか－大学入学後の能力向上の要因と支援策－」『学習システム研究』創刊号，査読無し，2015 年，pp.30-47

7．渡邉巧・大坂遊・草原和博「大学院生の学習システムとしてのGTAの体系とその意義－クリス・パーク論文が教育学研究者・教師教育者の育成に示唆するもの－」『学習システム研究』創刊号，査読無し，2015 年，pp.16-29
8．大坂遊・草原和博「社会科教育に関する内面化された規範・観念の脱構築－移行・接続教育としての初年次教育の意義－」『社会認識教育学研究』第30号，査読有，2015年，pp.191-200
9．草原和博・岡田了祐・渡邉巧・大坂遊・能見一修・横山千夏・若原崇史・寺嶋崇「「社会科教師はどのようなカリキュラム・デザインが可能か（２）－公民学習材の開発と活用の事例研究－」『学校教育実践学研究』第 21 巻，査読無し，2015年，pp.83-96
10．棚橋健治・渡邉巧・大坂遊・岩田昌太郎・草原和博「教師のリーダーシップと教科指導力の育成プログラム－シンガポール国立教育学院のGPLに注目して－ 」『学校教育実践学研究』第 21 巻，査読無し，2015 年，pp.133-142
12．岡田了祐・草原和博「教員志望学生にみる社会科カリキュラム分析力の向上とその効果－社会系（地理歴史）カリキュラム・デザイン論の受講生を手がかりに－」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第二部（文化教育開発関連領域）第 63 号，査読無し，2014 年，pp.49-58

〔学会発表〕（計 7 件）
1．Kazuhiro Kusahara, Shotaro Iwata, Hiromi Kawaguchi, Yu Osaka, Miyuki Okamura, Symposium; The Problems and Challenges That Teacher Educators Face in Japan, 22nd-24th Aug. 2016, *2016 ATEE Annual Conference, Professional Roles of Teacher Educators in Eindhoven* (Netherlands)
2．草原和博・渡邉巧・阪上弘彬・大坂遊・金鍾成・稲垣和・岡田公一・河原洸亮・斉藤弘樹・迫有香・竹内和也・辻幸大・守谷富士彦・山口安司・山田薫・岩下真也・上嶋智江・小川征児・木坂祥希・魏思遥・佐々木拓也・辻　本成貴・寺嶋崇・杠拓哉，山田健司「社会科授業の課題解決支援プログラムの研究・開発－教師と教師教育者の専門性向上のために－」2016年2月20-21日，社会系教科教育学会 第27回研究発表大会（於：鳴門教育大学）
3．草原和博「研究者と学校現場が連携した社会科授業研究の諸類型－私は何のために・何をしてきたか－」2016年1月23日，2016年韓国授業研究学会冬季学術大会（基調講演）（於：ソウル・韓国）
4．岩田昌太郎・草原和博・川口広美・渡邉巧・大坂遊・川口諒「「教科の指導法」を指導できる教師教育者の養成と成長－大学院生はいかにして大学教員になるのか－」2015年10月10日，平成27年度日本教育大学協会研究集会（於：大宮ソニックシティ）
5．草原和博・岡田了祐・大坂游・渡邉巧・岩下真也・上嶋智江・小川征児・木坂祥希・魏思遙・佐々木拓也・辻本成貴・寺嶋崇・山田健司・杠拓哉「社会科授業改善ハンドブックの開発と活用－教師の課題分析と課題解決を支援するために－」2015年2月21-22日，社会系教科教育学会 第 26 回研究発表大会（於：兵庫教育大学）
6．Kazuhiro Kusahara, Takumi Watanabe, Yu Osaka, Jongsung Kim, Becoming a Teacher Educator of Geography-History Education through Teaching and Researching Pre-service Teachers, 29th Jan.2015, *Joint Symposium with Hiroshima University and Soul National University in Hiroshima* (Japan)
7．Yu Osaka, Takumi Watanabe, Jongsung Kim, Kazuhiro Kusahara, How and when can pre-service teachers develop their lesson planning skills in Social Studies?, 4th-5th Nov.2014, *The 9th East Asia International Symposium on Teacher Education in Yuseong* (South Korea)

〔図書〕（計 3 冊）
1．草原和博「社会科教師を育てる教師教育者の専門性開発－欧州委員会の報告書を手掛かりにしてー」原田智仁・關博和・二井浩和編著『教科教育学研究の可能性を求めて』風間書房，2017年，pp.281-290
2．草原和博「博士論文研究としての教科教育研究」日本教科教育学会編『教科教育研究ハンドブック－今日から役立つ研究手引き－』教育出版，2017年，pp.72-77
3．草原和博「社会科授業づくりの留意点とプロセス」全国社会科教育学会編『新社会科授業づくりハンドブック』明治図書，2015年，pp.7-13

〔その他〕
1．ホームページ：教師教育者の専門性開発に関するシンポジウムを開催しました
http://hu-kyosha.jp/?p=3026
2．ホームページ：韓国社会科授業学会で本講座の教員が基調講演を行いました
http://hu-kyosha.jp/?p=2149
3．ホームページ：オランダで教師教育に関する学会発表と研修に参加しました
http://hu-kyosha.jp/?p=2705
4．ホームページ：「教師教育者の専門性」に関する国際シンポジウムを開催します（2/8 広島，2/11 東京）
http://hu-kyosha.jp/?p=2092

６．研究組織
(1)研究代表者
草原　和博　（KUSAHARA KAZUHIRO）
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：４０２９４２６９

(2)連携研究者
岩田　昌太郎　（IWATA SHOTARO）
広島大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：５０４３３０９０

(3)連携研究者
川口　広美　（KAWAGUCHI HIROMI）
滋賀大学・教育学部・准教授
研究者番号：８０７１０８３９